

## えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団  
えひめ水産イノベーション創出地域  
TEL 089-960-1153 FAX 089-960-1105  
E-mail : sakamoto@ehime-iinet.or.jp  
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第19号 平成26年7月2日発行

### 7月です。今年も残り半年。

夏至から数えて11日目の日を「半夏生」(はんげしょう)といい、今年7月2日が「半夏生」です。この日は、昔の農家にとっては田植えを終わらせる目安の日だったそうです。関西地方では、植えた稲の苗がタコの足のようになり大地にしっかりとくっついて根付き豊作になるようにとの願いからタコを食べる習慣があったそうです。

そんなことから7月2日が「タコの日」となり、タコには疲労回復に効果のあるタウリンが豊富なことから、そこに目を付けた関西のスーパーが「『半夏生』には夏バテ防止にタコを食べよう!」とチラシやポップで販促活動を始め、今では関西以外にも広まっています。

昨日、我が家に配達された新聞にあったスーパー6社の折り込みチラシの全てに「半夏生にはタコ」の刷り込みがありました。



あるスーパーのチラシの一部分

ところで、タコは生物学上「八腕目」に分類され、「8本の足」は、実は「8本の腕」なのです!

タコを食べて鋭気を養い、円滑な事業の推進に取り組んで参りますので、これからもご支援・ご協力よろしくお祈りします。

### カタクチイワシ勉強会の開催

6月18日、愛南町の愛媛大学南予水産研究センター西浦ステーション(うみらいく愛南)で、同研究所主催の「第1回カタクチイワシ勉強会」が開催されました。

戦略支援プログラムでは、「モデル海産魚を用いた新魚種の成長・成熟の基礎研究」として、カタクチイワシを用いて成長・成熟・産卵に関する基礎調査を行い、成長抑制技術や産卵誘発技術

を開発して、カツオ一本釣りの撒き餌を確保するためのカタクチイワシの養殖技術の確立を目指しており、今回の勉強会は、今後の研究展開や実用化に向けての情報を交換するために開催されたものです。



講演をする水産総合研究センター瀬戸内海区分水産研究所の米田道夫氏

勉強会のゲストに、カタクチイワシの資源、生理、生態、実用化研究において第一線で活躍されている(独法)水産総合研究センター瀬戸内海区分水産研究所伯方島庁舎(今治市)の米田道夫氏(農学博士)を招き、「カタクチイワシの生物資源・生理学的特性と現場への応用展開」と題した講演があり、意見交換を行いました。関係者、学生等30余人参加しました。

### 26年度人材育成講座について

水産業の6次産業化を担う人材の育成を目指した「水産イノベーションスキル修得講座」の第3回の講座が6月28・29日に宇和島市(愛媛大学宇和島エクステンション)で開催されました。

今回の講座は2人の講師を招き、28日(土)は、渡邊 義氏(わたなべよし:神楽カウンセリングセンター代表[静岡市])による「人間関係をつくる」と題し、より良い快適な人間関係の維持や回復に役立つコミュニケーションスキルについて終日にわたり講義があり、翌29日(日)は、山内敏功氏(ピンデザインオフィス代表[松山市])による「コミュニケーションするデザイン」と題し、商品におけるデザインの重要性についての講義と「デザイナー育成デザインワークショップ」がありました。

山内氏は、昨年度に引き続いての講師で、我々に身近なところでは、愛育フィッシュのシンボルマークとロゴタイプをデザインされた方です。

